



学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和3年10月

学びの連続性を重視した教育活動

今年度、本校では「学びの連続性」ということに着目して学習活動を進めています。どのような学習も、過去の学習の積み重ねの上に成り立っています。それは、単なる知識や技能の積み重ねだけでなく、知識や技能を「どのように学んだか」という「学び方」の積み重ねも大切になってきます。6月に実施した全国学力・学習状況テストのアンケートによると、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていると感じている本校の6年生は、全国平均に比べて少ないという実態が見えてきました。子供自身、学びを次の学びにつなげていくことの大切さを分かってはいても、まだ十分できていないと感じていることが分かります。子供たちが学びを実感するためには、その日に学んだことを点で終わらせるのではなく、前の学びや、次の学びと線でつなげていくことが大切です。学びの線が複雑になればなるほど、学びの質は高まっていくと考えます。

そこで本校では、授業で子供たちにどのような力を身に付けさせたいかを明確にした上で、子供たちのそれまでの学びを生かした授業をすることに努めています。どのように生かしているかは、学年、学級によって異なります。それぞれの実態に応じて工夫をしています。例えば学びの足跡が視覚的に理解できる掲示を工夫している学級があります。国語の時間、1年生は、大きく拡大した教科書の本文を教室内に掲示し、それぞれの場面でどのようなことを学んだか振り返ることができるようにしました。前の時間に学んだことと、今回学んだことを比べることで、登場人物や場面の様子がずいぶん異なることに気付いた子供たちは、その違いが明確になるように、音読の仕方を工夫していました。

また、本校では、授業の振り返りの場面も大切にしています。5年生の算数では、授業の最後に「算数日記」を書いています。日記として、その日の授業で学んだことを振り返って書くことで、どのようなことが分かって、どのようなことが分からないのかが見えてきます。四角形の内角の和を求める学習では、三角形の内角の和を学習した後の算数日記で、「四角形の内角の和も知りたい」という子供の意見を取り上げることで、「自ら見付けた課題を解決したい」という、子供主体の学習を進めることができました。

今後も、子供たちが学びの質を高め、学びを実感して次の学びにつなげていくことができるよう、学校一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

